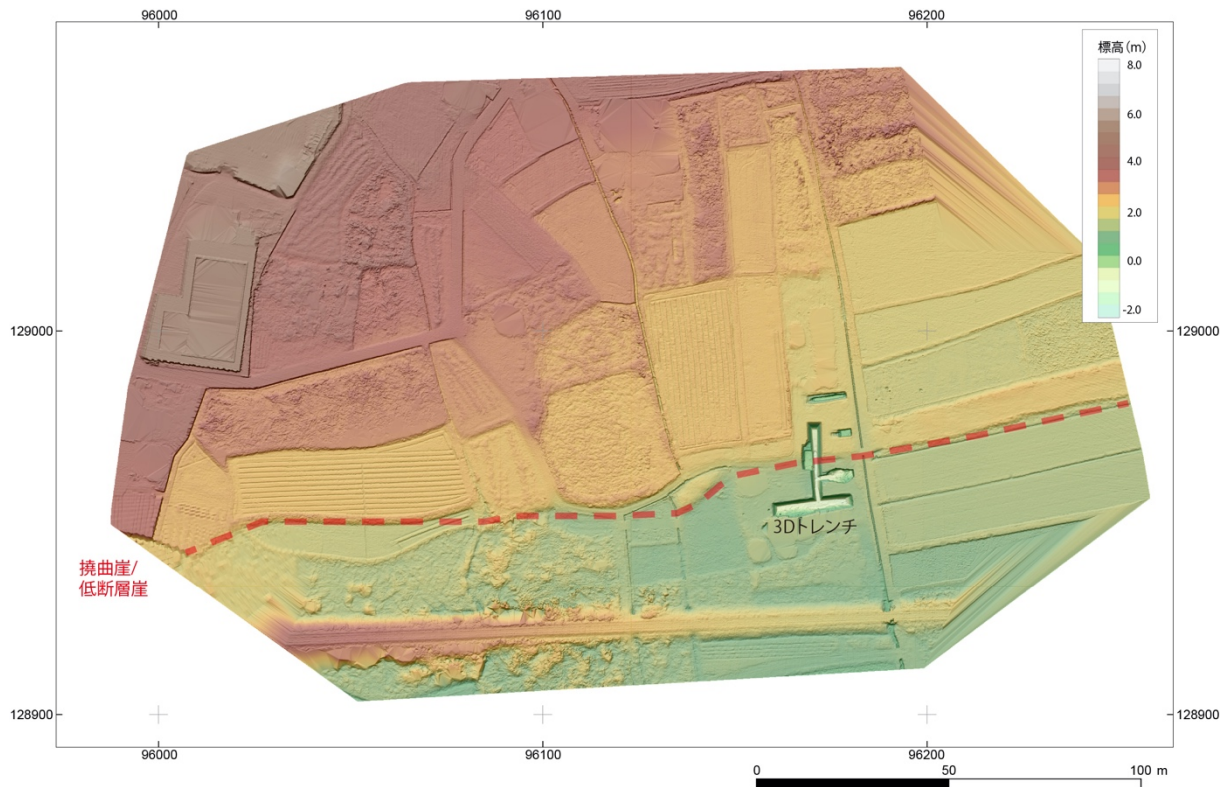
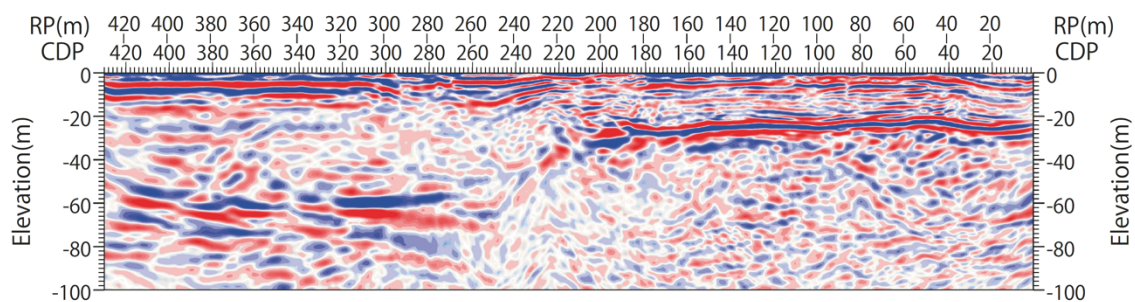


1 変位履歴に基づく連動性評価のための地形地質調査

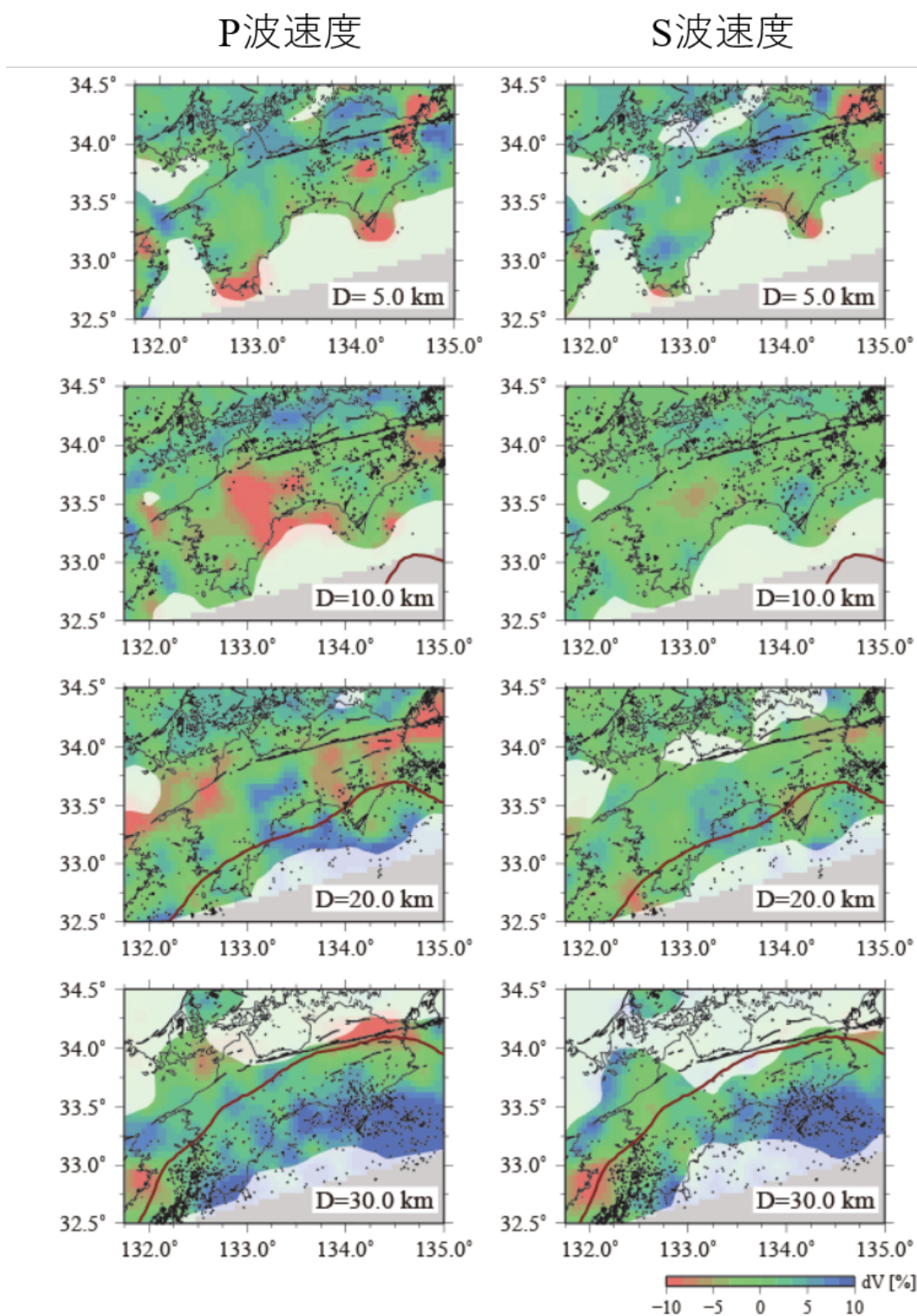


鳴門南断層・阿波大谷地区における3Dトレンチ調査位置と撓曲崖。基図はドローンLiDARによる0.1mDEMを使用。南へ傾斜する扇状地性段丘面が東西に延びる中央構造線断層帯・鳴門南断層（赤破線）によって切断されている。



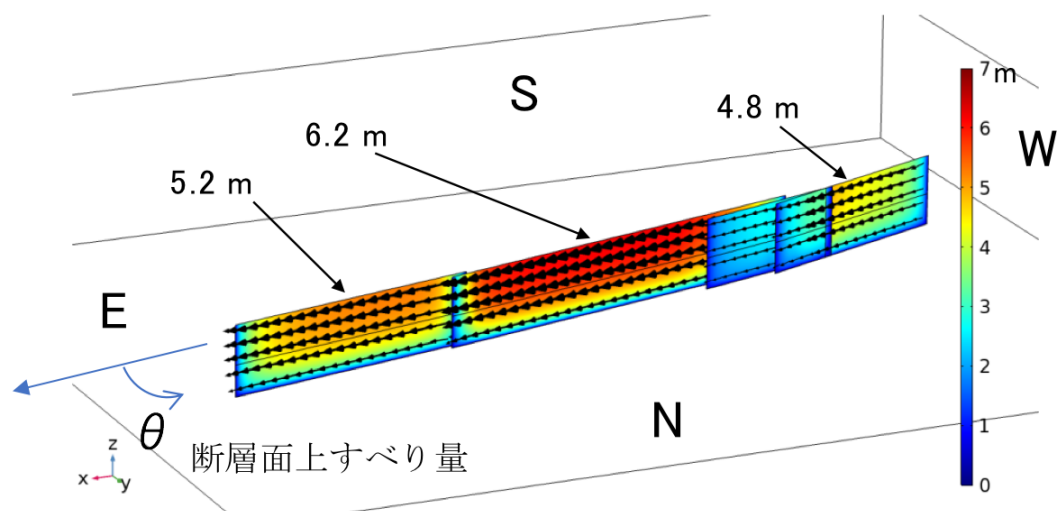
鳴門断層・撫養木津地区におけるS波反射法地震探査の結果（マイグレーション深度変換断面図）。周辺の変動地形、ボーリングの結果を総合して、CDP180付近及びCDP300付近に2条の断層がイメージングされた。前者はほぼ鉛直～高角北傾斜、後者は高角南傾斜と推定される。

2 地殻応力場推定のための微小地震解析



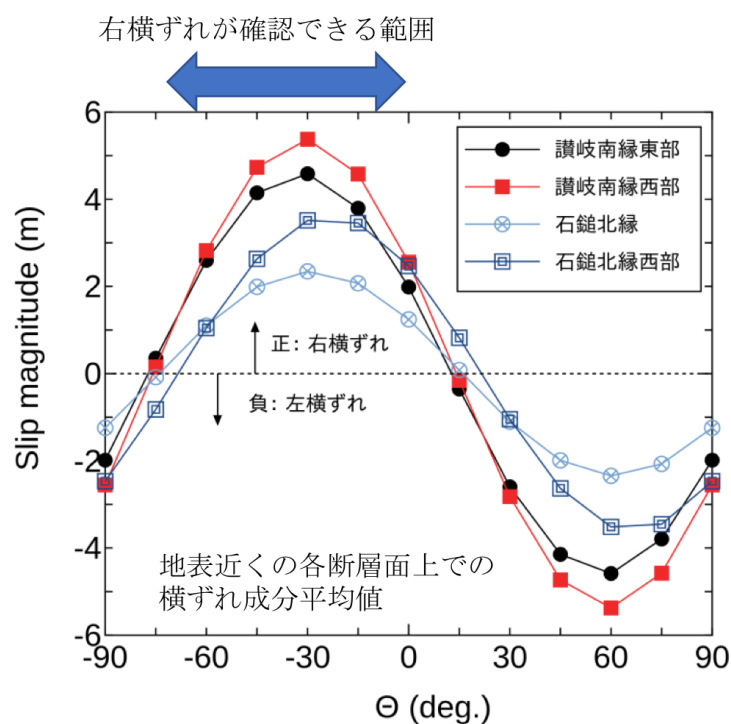
地震波走時トモグラフィ解析によって、四国地域では中央構造線を境に地震波速度が異なるほか、四国の東部・中部・西部でも構造の違いがあることが明らかになった。

3 三次元有限要素法 (FEM) による断層モデルの高度化



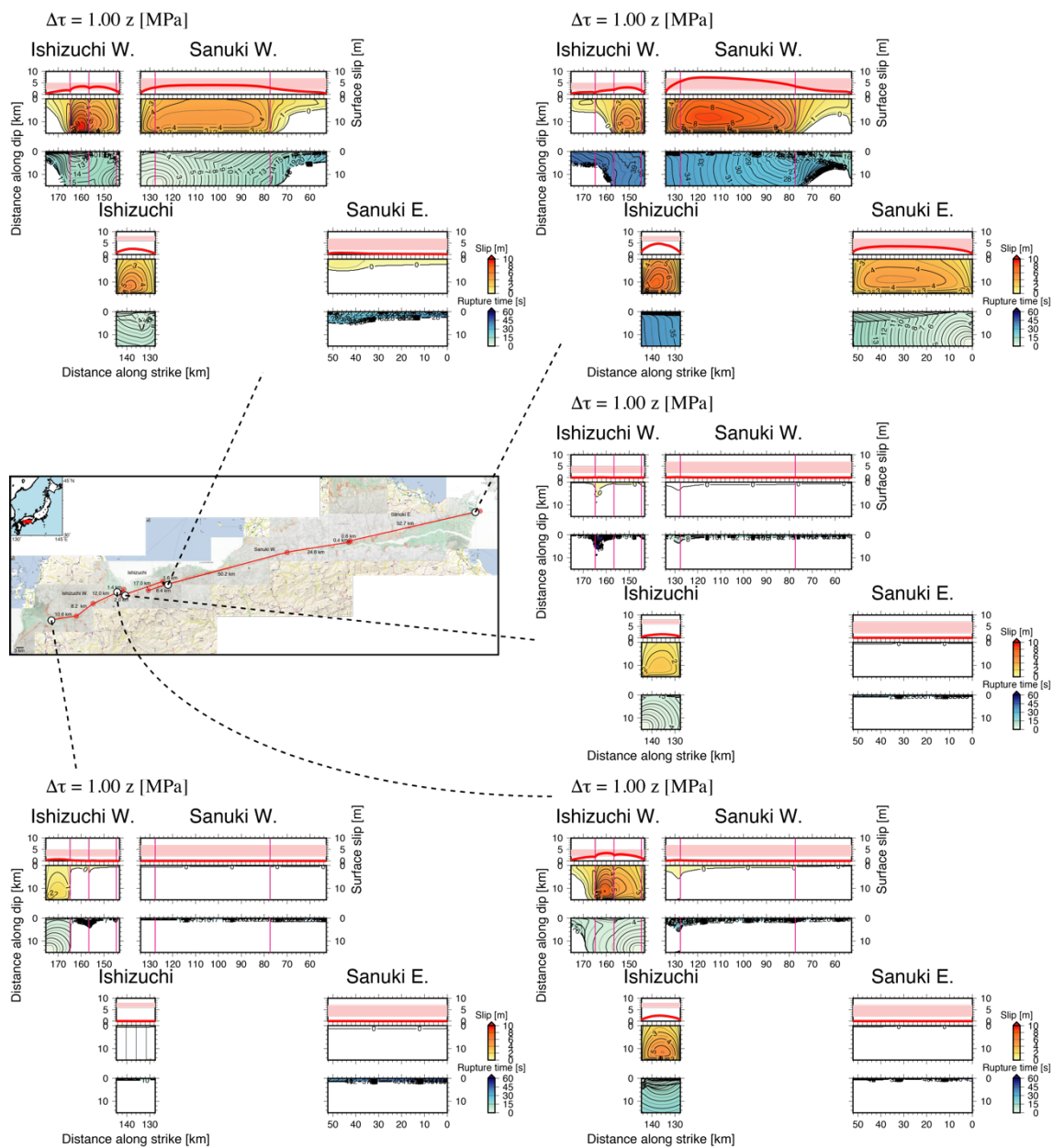
最大主応力方位 θ は、東から反時計回りをプラス、東から時計回りをマイナスと設定

試作した断層面モデルに対する断層面上のすべり分布
最大主応力方向： $\theta = -30^\circ$ (N60°W)



全ての断層面が右横ずれを生じる最大主応力方向の範囲 ($-60^\circ < \theta < 15^\circ$)

4 動的破壊シミュレーションによる連動性評価



破壊開始領域を変えた場合の破壊過程の例。